2017-18年度
国際ロータリー会長
イアン・ライズリー

Weekly Report Niigata

ロータリー：
変化をもたらす

国際ロータリー
2017-18年度テーマ

2017～18年度
新潟ロータリークラブ会長
徳永　昭輝

新潟RC　1月第　4例会（2018.1.30）№3217

(1)　ロータリーソング「それでこそロータリー」斉唱

(2)　徳永　昭輝会長挨拶

寒い日が続き、いま新潟でもB型インフルエンザが流行の兆しを見せ、村上の方では学校閉鎖になっている地域もあるようです。

残念ですが、JTBの安藤智さんが転勤の為退会いたします。後程ご挨拶を頂きます。

さて、2017－18年度がスタートし6か月が過ぎました。例会の食事を予約制にし、皆様にご理解いただき第3例会をカレーにし、差額を各種寄付に回す方針とさせて頂きました。現在まで、食事数の合計が355食、金額にすると355,000円計上されました。ご協力に感謝申し上げます。

今月の例会では、今まで「人の遺伝学的な平均寿命」に触れ、先週は「働き方改革」が進められようとされている現状に触れ「医師の働き方改革」について話をさせて頂きました。

今日は、厚生労働省が「在宅医療2025年には100万人」になるという推計に基づいて、医療計画の一つとして、「在宅医療の体制づくりを加速させる方針である」という状況を踏まえ、在宅医療について考えてみたいと思います。

1月26日の朝日新聞が「団魂の世代（昭和22年～24年）がすべて75歳以上となる2025年に在宅医療を受ける人が100万人を超える」と報じています。2016年6月時点で、自宅や介護施設で訪問診療を受けた人は約67万人、今後の高齢者の増え方を考慮すると、2025年には在宅医療を必要とする人を100万人、今より約1.5倍になると推計しています。

現在の入院患者のうち、軽症で本来は入院の必要がない高齢者が2025年時点で約30万人と推計され、その一部が在宅医療の対象になるとして、医療費の抑制を狙って、入院患者を在宅医療に流し、入院用のベッドも現在より10万床以上減らし、119万床とする計画を進めています。

また、死亡者数は2016年の約130万人が、2025年には約150万人に増えると推計し、医療機関だけでは支えられないとして、「みとり」を在宅医療が担うことを促進していくとしています。

国民の多くが自宅で亡くなることを望んでいるという調査結果もありますが、2016年の死亡者のうち自宅で亡くなったのは13%で、自宅で在宅医療を受ける場合、公的な在宅介護サービスを利用しても患者を支える家族の負担が増えることになり、在宅医療の有効性やコストに関してもまだ必ずしも明らかになっていないのが現状です。

死亡の場所別にみた死亡数・構成割合の推移をみると、高度経済成長期の初期、1950年代には自宅で息を引き取る人が多くありましたが、昨今の日本では病院で最期を迎える人が8割近いのが現状です。老人ホームや介護施設で亡くなる人が徐々に増えていますが、いわゆる“終末期”への対処について、今後介護や医療の両面から考えて行かなければならない時代になっています。

～在宅医療とは～

社会生活を送りながら病院に通いつつ自宅で療養を行うこと」ですが、狭義では「退院が難しい患者が自宅で、訪問する医療者によって継続治療受ける」という医療の形態のことです。

～人生の最後を過ごしたい場所は？～

たとえ末期がんであっても、厚労省の調査では7割以上の人が自宅で過ごしたいと答えています。しかし、実際に自宅で亡くなる人は1割程度というのが現実です。2012年内閣府による「高齢者の健康に関する意識調査」によると、「最期を迎えたい場所」として「自宅」が54.6%と最も多く、次いで「病院などの医療施設」が27.7%でした。住み慣れた自宅で、家族に囲まれながら過ごしたいという願いを叶えるためにも、在宅医療の更なる拡充が望まれます。

～なぜ在宅医療がひろがらないのか？～

在宅医療と入院医療のコストを比較では、1か月後に亡くなったあるケースの場合、亡くなる前月に在宅医療・介護でかかった費用約35万円；医療保険13万1660円（自己負担8000円）；介護保険21万5407円（自己負担2万1543円）、他におむつ代約1万円、介護タクシー約5000円などが必要で、亡くなった場合みとり料3万円などの経費が必要であった。

このようなケースで入院した場合、1か月間の一般的な費用；医療療養病棟30－50万円程度、緩和ケアー病棟、がん末期患者さんの場合、100～150万円の医療費がかかります。自己負担は年齢や所得に応じて上限がありますが、70歳以上だと月1.5万～約8万円、他に食事代やおむつ代、差額ベッドなどの費用が必要で、日本医師会総合政策研究機構の2007年の調査では、死亡1か月間の入院費用は75歳以上で平均63万円といった結果を示しています。

しかし、家族が自宅でみとりたいと望んでも、なかなかそのようにできないのが現実です。私が、がん患者さんを自宅でみとるために、モルヒネを持続点滴をしながら疼痛を緩和し、家族と一緒に自宅で「みとる」ために往診をしていましたが、最後は入院管理を希望された場合もありました。

自宅で、在宅医療を受ける場合、公的な在宅医療サービスを利用したとしても、患者さんをみる家族の負担が大きいのが現実で、患者や介護をする家族の側に、在宅医療についての理解を深めながら、昼夜を問わずケアをしたりする医療機関や介護事業者への報酬を手厚くするなど行政の後押しが必要だと思います。皆さんはどう考えますか？

(3)　ゲストの紹介

・新潟支社総務部総務課　支社長秘書　藤代紳一氏

(4)　３分間スピーチ

・社会福祉法人啓真会　理事長　徳山　啓聖君

・㈱塚田牛乳　代表取締役社長　塚田　正幸君

(5)　退会ご挨拶

・JTB新潟支店長　安藤　智さん

(6)　各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(得永　哲史委員長)

石橋　正利君　　小林　敬直君

小松　茂樹君

米山奨学会寄付発表(徳山　啓聖副委員長)

小松　茂樹君

青少年育成基金寄付発表(小田　等委員長)

若杉　　武君　　本多　　晃君

小田　　等君

(7)　ニコニコボックス紹介（今井　政人委員）

・小松　茂樹君　1月27日　いただいたワインを空け、私の61回目の誕生日を家族から祝ってもらいました。みんなでニコニコできました。有難うございました。

・塚田　正幸君　久しぶりに皆さんの前で話す機会(3分間スピーチ)を得ましたので。

(8)　表彰

・新田幸壽君へポール・ハリス・フェロー認証状贈呈

・得永哲史君へベネファクターの認証状と記章贈呈

(9)　幹事報告（織戸　潔幹事）

・ロータリーレートが2月より現行の1ドル、114円から110円に変更になります。

(10) 会員スピーチ

「新潟駅付近連続立体交差事業と上越新幹線・

在来線同一ホーム乗換えについて」

ＪＲ東日本新潟支社長　今井　政人君

(11) １月３０日例会の出席率　７８．６５　％

会員数　９２名（出席免除会員　８名）

出席者　７０　　名(出席免除会員　５名を含む)

(2週間前メーク後　８９．７７　%)

２月１３日の例会予定

会員スピーチ

キリンビール㈱新潟支社支社長　森下　英樹君

新潟ロータリークラブホームページアドレス

http://www.niigatarc.jp/